

## ALセミナー2017-1 - 古新舜監督のシネマAL

5月11日(木)午後、体育館で全校生徒対象の「アクティブ・ラーニング・セミナー2017」を開催しました。昨年は、(株)アクティブラーニングの得能絵理子先生にご講演いただきました(ドリーム第25号参照)。今や、本校の授業で「アクティブ・ラーニング(AL)」は普通になっていますので、コスモボックス(株)社長で映画監督の古新舜(こにい しゅん)氏に「シネマ・アクティブ・ラーニング」を実施していただきました。次々に繰り出される「ワーク」を瞬時に理解し、積極的に実行する皆さんを見て、「ポテンシャルの高さ」を感じました。並木用に新作ワークも実施されました。セミナー後の「謝辞」で生徒会長の木村君が「ALが勉強だけでないことがわかりました。」の述べていました。しかし、皆さんの中には今日の「ワーク」は「遊び」なのでは、と思った人もいるでしょう。3年前の私だったら、そう思ったかもしれません。今回の「ワーク」それぞれについて「認知心理学」や「行動心理学」などから説明することは可能ですが、古新氏は、あえて解説しませんでした。それは、皆さんの「感性」に期待したからです。つまり、「正解」を求めることをしなかったのです。

これまで、我々の「勉強」は主に「言語脳」と呼ばれる「左脳」を使ってきました。「左脳」は、「理論」「理解・記憶」「論理的思考力」「計算力」「分析力」などを司っています。しかし、近未来は「左脳」だけでなく、「イメージ脳」と呼ばれる「右脳」が重要になります。なぜなら、AI(人工知能)は「左脳」の機能を得意とするからです。

今回の「ワーク」の中には「右脳」を使うワークが多かったと思います。「名詞を次々に出す作業」で古新氏は「何も考えずに書き出してください」と言っていました。「右脳」は、「直感」「感性」「企画力」「創造力」「空間認識力」などを司っています。

セミナーで得た「感性」を大切に、「左脳」だけでなく「右脳」を鍛えるという意識をもって生活して欲しいと思います。「近未来」を生きる皆さんへの私からの提言です。

古新氏は、「生徒も先生方もキラキラ輝いている学校ですね。」「先生方の温かいサポートに感謝いたします。」と言って、東京に戻られました。

